

日本・タイ国際協力に基づく図書館情報学研究・ 教育に関する史的検討：

2018 年度国際研究プロジェクト活動報告

Historical Study on Library and Information Research / Education Based on International Collaboration between Thailand and Japan:

A Report of International Research Project of the Research Institute,
the College of Education, Psychology and Human Studies in 2018

小田 光宏
Mitsuhiro ODA

1. 研究計画の策定

2018年度の活動計画は、2016年度に実施した「日・タイ国際協力に基づく図書館情報学教育の可能性」、ならびに、2017年度に実施した「日・タイ国際協力に基づく図書館情報学教育プログラム策定に関する基礎的研究」の成果に基づいて展開することを意図した。これまでの活動の概要は、『教育人間科学部紀要』9号及び10号に、活動報告記事として掲載している¹⁾。

2017年度の活動報告では、記事の末尾において、今後取り組むべき具体的な課題として、下記の四つを掲げた。

- ①受け入れた招聘研究員の日本における調査研究への支援
- ②タイの図書館情報学教育に関係する英語による基礎文献・情報の収集
- ③招聘研究員の指導教員との共同研究の可能性に対する検討
- ④タイにおける図書館情報学教員推進に貢献する講演会・セミナー等の開催

これらは、いずれも2018年度に実施する計画の要点となるものばかりである。とりわけ、2016年度と2017年度における成果を踏まえると、「図書館情報学研究・教育」という同一の表現をしてはいても、日本とタイの社会的・文化的相違が及ぼす影響が大きいことから、それぞれの国に対する共通理解を徹底しなければならない。それゆえ、2018年度は、歴史的観点からの考察を主眼とする

ことを基本方針とした。すなわち、日本とタイの図書館情報学分野での国際協力のあり方と可能性を追究するために、歴史的観点から、両国の図書館情報学研究・教育を検討することを、研究目的に設定した。

具体的には、上記の四つの課題を、以下の4点に再整理した上で、研究を遂行した。

- (1) 招聘研究員ナッタワディ・ブーンワッタノパス (Nattawadee Boonwattanopas) 氏に対する研究支援を行う。
- (2) 日本とタイの図書館情報学教育の互換可能性に関する知見を得るために、日本において、タイとの学生交流を実施している関係機関に対する視察と聴取を行う。
- (3) タイの図書館情報学教育の発展に資するための講演・研修活動を実施する。
- (4) 日本の図書館情報学史に関係する研究成果の一部を、学会等で報告する。

なお、2018年度は、図書館情報学の領域において、歴史研究に携わっている仲村拓真氏（青山学院大学大学院教育人間科学研究科教育学専攻博士後期課程）に特別研究員となることを要請し、研究面での協力を得た。

2. 活動状況

2.1 ブーンワッタノパス (Nattawadee Boonwattanopas) 氏に対する研究支援

ブーンワッタノパス氏は、2018年3月から5月末まで日本に滞在した。氏は、タイのスコタイ・タマチャラート公開大学 (Sukhothai Thammathirat Open University, 以下STOUと記す) の博士後期課程に所属する大学院生で、学位申請候補者 (Ph.D candidate) として、同大学教授のチュティマ・サチャナンド (Chutima Sacchannand) 氏の指導を受けている。日本における滞在は、タイの学位取得援助プログラムの一つであるRoyal Golden Jubilee Ph.D. Grant (以下, RGJ-Ph.D Grantと記す) に基づくものである。このGrantでは、タイ以外の二つの国において国際的な研究を行うことが獲得要件となっており、日本における研究遂行も、こうした前提のもとで行われた。

氏の滞在予定に合わせて、2017年度における本プロジェクトにおいては、研究支援の準備を行い、日本での滞在中に研究が円滑に進められるように配慮した。具体的には、氏の研究テーマである“Implementation Strategies of the National Digital and Information Literacy Policy Framework for Developing Primary School Students in Thailand”に沿って、情報リテラシーの育成に取り組んでいる小学校を確認するとともに、このテーマを研究課題としている研究者及び実務者をリストアップし、氏にこうした情報を提供した。

氏の研究方法は、基礎的な文献研究に加えて、情報リテラシー教育を実践する授業観察、ならびに、授業の実践者や初等教育における情報リテラシーを対象にしている研究者へのインタビューが中心となっている。そこで、授業観察ならびに授業の実践者へのインタビューのために、2018年4

月から5月にかけて、下記の小学校を訪問する機会を設けた。

- ・立教小学校
- ・市川市立行徳小学校
- ・青山学院初等部
- ・慶應義塾幼稚舎

また、上記の小学校の関係者に加えて、学校図書館の実務者、大学の研究者に対するインタビュー調査に対する援助を行った。

2.2 関係機関の視察・聴取

日本において、タイとの学生交流を実施している関係機関に対する視察と聴取に関しては、前述のサチャナンド教授が、ブーンワッタノパス氏への研究指導のために来日した期間（2018年4月3日から4月21日）に、共同で行なった。このとき、サチャナンド教授が、タイのプーケット島にあるプーケット・ラジャブハット大学（Phuket Rajabhat University）、ならびに、サムイ島に分校を有するスラタニ・ラジャブハット大学（Suratthani Rajabhat University）の評議員であるため、同様の環境にある機関を優先させたいとの意向が寄せられた。そこで、この意向を満たす地域が、日本においては沖縄県が最も類似することを確認し、国外から多くの留学生を受け入れている、下記の2機関を選び、留学生受入の状況を聴取した。

- ・沖縄科学技術大学院大学（4月11日）
- ・名桜大学（4月12日）

2.3 タイにおける講演・研修活動

タイにおける図書館情報学教育の推進に関しては、筆者がタイに2回（2018年8月、ならびに、2019年1月から2月）にわたって赴いて活動した。その際、2.2に示したサチャナンド氏からの要請と関係させ、プーケット島とサムイ島を中心に、下記の講演会・研修会を実施した。それぞれの記載は、開催機関、開催日、講演テーマ、ならびに、その概要である。

※スコタイ・タマチラート公開大学（Sukhothai Thammathirat Open University）、2018年8月6日
Digital Information and Media in the Educational Policies in Japan

ブーンワッタノパス氏と共同で、日本におけるデジタル情報・デジタルメディアに関する教育政策の発展と現状について解説した。また、教育政策を、国レベルのもの、地方自治体の教育委員会レベルのもの、個別の学校レベルのものに区分し、それぞれの役割の相違を指摘した。

※ブーケット・ラジャブハット大学 (Phuket Rajabhat University), 2018年8月14日

Libraries and Reading Promotion for Sustainable Development: Case Study of Japan

日本における、読書振興の状況を、公共図書館、学校図書館、大学図書館における事例を中心に紹介し、かつ、実践の要点を整理して示した。また、こうした取り組みを持続可能にするために求められる条件を考察した。

※ブーケット・ラジャブハット大学 (Phuket Rajabhat University), 2018年8月14日

Education for the Development of Children and Youths into Digital Age: Case Study of Japan

日本における初等・中等教育の最新の動向を、デジタル情報の活用という視点から考察するとともに、学校教育における取り組みの事例を紹介した。

※ブーケット・ラジャブハット大学 (Phuket Rajabhat University), 2018年8月15日

Library and Learning Centre Management for Sustainable Reading Development

読書活動を持続的に展開するために、図書館ならびに学習センターが、経営面で重視すべき点を整理して示した。また、近年の具体的な経営手法に関して、個別の事例を紹介しながら解説した。

※ブーケット・ラジャブハット大学 (Phuket Rajabhat University), 2018年8月15日

Library Services and Activities: Lessons Learned from Living Libraries in Japan and Worldwide

サッチャナンド教授と共同発表の形態で、日本及び世界各国の生活に根ざした図書館活動の事例を、写真ならびに動画で紹介し、注目すべき活動や今後の展開が期待される取り組みについて考察した。

※スラタニ・ラジャブハット大学 (Suratthani Rajabhat University), 2019年1月31日

School Librarianship in Japan

日本における学校図書館の現状と課題、学校図書館員のコンピテンシーと養成教育の変遷、学校教育学と図書館情報学の隣接などに関して、理論面に焦点を合わせて解説した。また、具体的な事例を写真や動画で紹介し、タイにおける実状との比較をしながら、参加者との討議を行った。

※スラタニ・ラジャブハット大学 (Suratthani Rajabhat University), 2019年2月1日

Curriculum and Competency for Current School Librarianship: Cases in Japan

日本の学校図書館の状況に基づいて、調査結果が示す学校図書館員のコンピテンシーを紹介するとともに、司書教諭養成の教育課程と2016年に定められた学校司書養成のモデルカリキュラムの詳細を解説した。

2.4 研究成果の報告

研究成果の報告に関しては、日本とタイの図書館情報学研究・教育全般を扱うまでには至らず、日本の公共図書館の歴史的発展を統計的に分析した、仲村拓真氏の下記のポスター発表を掲げるとどまる。

- ・仲村拓真「近代日本図書館統計に基づく公共図書館の活動・運営の分析：県・六大都市・市の相違への着目」（第66回日本図書館情報学会研究大会，2018年11月4日，琉球大学）

3. 今後に向けて

筆者は、2019年度より、青山学院大学に新たに開設されたコミュニティ人間科学部に移籍した。それゆえ、過去3年にわたって実施してきた、日本とタイの図書館情報学教育・研究に関する国際プロジェクトは、2018年度をもって終了する。今後は、これまでの問題意識と成果を踏まえて、異なる展開を模索することとする。

注

1) 下記の2点となる。

- ・小田光宏「日・タイ国際協力に基づく図書館情報学教育の可能性：2016年度国際研究プロジェクト活動報告」『青山学院大学教育人間科学部紀要』9号，2018年3月，p.81-86.
- ・小田光宏「日・タイ国際協力に基づく図書館情報学教育プログラム策定に関する基礎的研究：2017年度国際研究プロジェクト活動報告」『青山学院大学教育人間科学部紀要』10号，2019年3月，p.169-172.